

# 給食室の窓から

2019.2

## 2月3日は節分

節分の豆まきは、季節の変わり目に生じる邪気を払う儀式として中国から伝わりました。

宮中で行われていた風習が、室町時代頃に豆をまいてオニを追い払う行事として庶民にも定着しました。

### どうして？豆をまくの？

古来より日本では穀物には「邪気を払う力がある」とされてきました。

豆＝魔目(鬼の目の意味)や豆＝魔滅(魔物を滅するの意味)の語呂合わせもあり、豆をオニにぶつけることで邪気を払い、無病息災を願うようになりました。

また、現在では自分自身の弱い気持ちや意思を追い払うという思いを込めて豆まきを行うようです。

豆まきのために炒った豆は「福豆」と呼ばれ、豆を炒る＝魔目を射るに通じるとも言われます。

もしも、炒らずに生の豆をまいたら…そこから芽が出てくるかもしれません。まいた豆から芽が出てくるのは縁起が悪いとされ、豆まきの豆は必ず炒るようになりました。

保育園では、豆まきの大豆をひまわり組(年長児)がフライパンで炒り、福豆を作ります。

今年もこわいオニを子どもたちが元気いっぱいに退治します！！今年も1年、元気に過ごせますように。

## こすもす組(3歳児)に「お箸のはなし」をしました。

子どもたちは、運動あそびや積み木、お絵かきや折り紙…など、遊びの中でも手指をたくさん使ってきました。

お箸を持つときも、遊びで養われた力を少しずつ生かしていきます。

「早くお箸もちたい！」とやる気を優先することもあります。結局上手く使えずに注意ばかりでイヤになってしまったり、大人も「やりたいって言うから持たせたのに…」とお互いに疲れてしまうようではもったいないですね。

お箸を持つ目安としては、スプーンを指三本でえんぴつもちで握り、ひと口大にすくえるようになることです。

お箸のはなしは、①お箸を持つためのスプーンの使い方

②お箸は正しく使えば便利な道具(振り回さない)

③お箸のマナー・やってはいけないこと

の3点を子どもたちに伝えています。

個人差があるので全員一斉には始めません、

一人ひとりのスプーンの使い方を見ながら進めていきます。

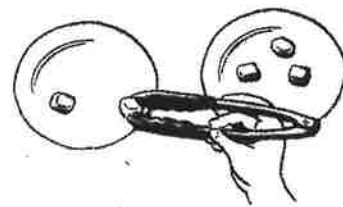
「お箸のはなし」を聞いた後、子どもたちがお箸をつかうイメージを持ちながら、自分自身の姿勢や食器の使い方

意識を向け始めている姿は、とても頼もしいです。

お箸は、大人でも上手に使うのは難しいものです。

成長に合わせて「できていること」を見て励ましながらすすめます。

トングで小さな消しゴムなどはさみ、皿に移す練習をします。



あそびの  
Φで...

エンピツの手持ちで波線や  
ギガギガ線もなごま...  
という重さし  
おはしに近づきます。



・まずは大人の「手」をまねて



・上から握る  
(上手持ち)



・つまみ持ち



・指3本で「エンピツ」持ち